

福島県郷土資料情報

No.55 2015. 3

編集・発行：福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1

Tel 024-535-3218

Fax 024-536-4787

<http://www.library.fks.ed.jp/>



『会津若松市及附近案内図』（右部分）

目 次

福島県立図書館移転 30 周年記念事業「図書館の至宝」展	1
福島の子童文学者 38	9
市町村広報誌特集記事に見る東日本大震災 相双・いわき地区 (H25.1.1～25.12.31)	11
福島県関係書誌の紹介 2014	21

福島県立図書館移転 30 周年記念事業

「図書館の至宝」展

福島県立図書館は、1985 年 7 月にこの福島市森合の地に移転してから、2014 年で 30 周年を迎えたことを記念し、館内において年度を通し、情報発信の一環として当館の所蔵する貴重な資料を公開する「図書館の至宝」展を開催いたしました。

併せて、福島県に関わる事柄に関して専門的に研究しておられる方を講師に迎えて講座を開催いたしました。

1. 新聞でたどる福島県立図書館のあゆみ 2014.4.4(金)～4.30(水)
- * 2. 錦絵に描かれた福島 2014.5.2(金)～6.4(水)
3. 装丁の妙～みちのく豆本の世界～ 2014.6.6(金)～7.2(水)
- * 4. 磐梯山噴火 2014.7.4(金)～8.6(水)
連続講座 第 1 回「1888 年の磐梯山噴火」磐梯山噴火記念館 副館長 佐藤公氏
7 月 6 日 (日) 13:30～15:30 41 名参加
5. 児童図書研究室 『名著復刻日本児童文学館』 2014.8.8(金)～9.3(水)
- * 6. 堀江繁太郎展 2014.9.5(金)～9.27(土)
連続講座 第 3 回「アートクラブと堀江繁太郎」福島県立美術館 主任学芸員 堀宜雄氏
9 月 14 日 (日) 13:30～15:30 45 名参加
7. オーピー・コレクション『復刻マザーグースの世界』 2014.10.3(金)～11.5(水)
- * 8. 集古十種展 2014.11.7(金)～12.3(水)
連続講座 第 5 回「松平定信と『集古十種』」福島県立博物館 主任学芸員 小林めぐみ氏
11 月 16 日 (日) 13:30～15:30 42 名参加
9. 『日清戦史 草案集』～佐藤文庫より～ 2014.12.5(金)～12.27(土)
- * 10. 会津三方道路 2015.1.6(火)～2.11(水)
- * 11. 福島県史跡名勝の『鳥瞰図』 2015.2.21(土)～4.1(水)

展示 11 回のうち、*印の福島県に関する資料を扱った 6 回について、改めて公開した資料を紹介いたします。

錦絵に描かれた福島

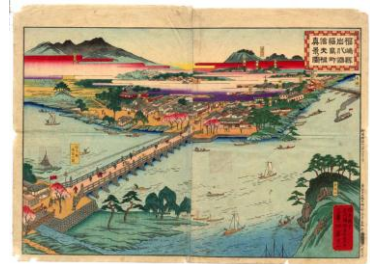
錦絵は、「浮世絵の多色摺り木版画の総称」で、美人画や役者絵、名所を描いた風景画などがあり、江戸時代に庶民的な絵画として流行した。多くの色を摺り分け錦のように華やかで美しいことから「錦絵」と呼ばれている。今回は、中通りを代表して『福島県岩代国福島町信夫橋真景ノ図』、浜通りから『奥州相馬妙見祭 古典画』、会津地方から『白虎隊英勇鑑』を展示した。

『福島県岩代国福島町信夫橋真景ノ図』は、鬼島令 三島通庸の命で作られたアーチ型の石橋となった信夫橋を中心に、当時の福島の町並みを見下ろすように描かれている。弁天山や信夫山、県庁や板倉神社なども見える。明治18(1885)年に刊行され、画工 辻岡文助と出版人 伊藤彦七の名が記載されている。

『奥州相馬妙見祭 古典画』に描かれた野馬追いは、奥州中村藩の相馬家の鎮守である妙見社の祭礼である。安藤広重の画による3枚組。祭礼前日の中村城下～原ノ町宿までの旗本組の行列を描いた「行列之図」、当日の野馬追いの様子や見物人の賑わいも描かれた「野馬追之図」、翌日の小高妙見社前の野馬掛が描かれた「野馬取之図」で構成されている。

『白虎隊英勇鑑』は明治初期に出版され、会津戦争における白虎隊の悲劇を描いている。右手下には鶴ヶ城が煙に包まれ、戦場から山中を若松に向かっていった彼らが目にした飯盛山からの落城の情景である。白虎隊16名の切腹の様子が左半分に大きく描かれ、明治浮世絵版画界の代表的人物 肉亭夏良(小林清親)の作とされている。

錦絵の絵画として見る要素に加わえ、描かれた時代やその人々と対話できる楽しさも、地域資料としての醍醐味である。



『岩代国福島町信夫橋真景ノ図』



『奥州相馬妙見祭 古典画』



『白虎隊英勇鑑』

当館所蔵は、「福島県立図書館所蔵錦絵目録」(『当郷土資料情報 第44号』)に掲載)を作成し、既にデジタル化したものは当館HP「デジタルライブラリー」に『錦絵一覧』として、18タイトルを公開している。

(地域資料チーム 原 馨)

磐梯山噴火

明治 21(1888)年 7 月 15 日の朝、磐梯山は大規模な噴火を起こし、461 名にも上る尊い生命と多くの財産を奪った。この展示では、近代日本初の大災害を伝える『磐梯山噴火埋没図』『磐梯山噴火真図』『磐梯山噴火之顛末』の 3 点を公開した。

噴火において、最大の被害をもたらした現象は岩屑なだれである。水蒸気爆発により山体が崩壊し、岩塊がなだれとなって瞬時に流下した。崩壊した総体積は 13 億 m^3 (東京ドームおよそ 1,000 杯分)、総重量は 31 億トン、そして、岩屑なだれの速度は平均 80 km/時であったとされる。出版者は不明であるが、明治 21 年に発行された『磐梯山噴火埋没図』は、岩屑なだれが及んだ範囲を描いたものであり、噴火当時の地形を知る上で貴重な資料となっている。

明治中期は日本における新聞の黎明期に当たり、各社が競い合うように特色ある取材や報道を展開した。『磐梯山噴火真図』は明治 21 年 8 月 1 日の東京朝日新聞の絵附録として発行されたものである。洋画家・山本芳翠が現地写真を行い、版木を合田清が彫り上げた。これは実写に近い図として、大きな反響を呼んだ。

新聞がマスメディアの主力となりつつあったが、並行して錦絵や錦絵新聞、瓦版も多くの支持を得ていた。大阪のみむろ屋書舗が明治 21 年 8 月に発行した瓦版風の『磐梯山噴火之顛末』もその一つ。紙面中央に大きく、噴火する磐梯山と逃げまどう人びとが描かれており、読者に理解しやすいよう、「磐梯山の沿革」や「噴火山の原由」(噴火の原因)もあわせて紹介している。

以上 3 点以外にも当館では、写真や錦絵が所蔵されており、破裂口や被害状況などを伝える 25 枚の写真『磐梯山噴火写真』(遠藤陸郎/撮影 1888)、噴火の様子が描かれた錦絵『磐梯山噴火の図』(井上探景/画 1888)や『磐梯山噴火之図』(土佐光/画 1888)は、同時に行った「ロビー展示」にて複製版を公開した。



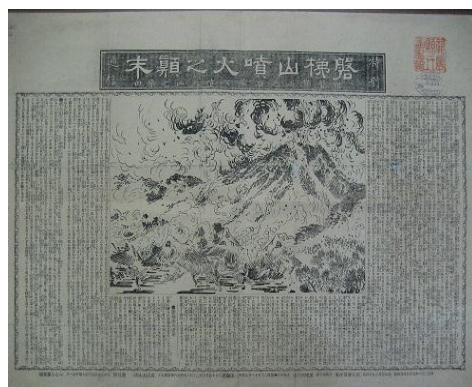
岩屑なだれを再現する実験の様子

7 月 6 日には、磐梯山噴火記念館副館長 佐藤公氏をお招きし、ふくしまを知る連続講座 1「1888 年の磐梯山噴火」を開催した。展示資料の解説を中心に、自然災害に対する心構えについての話やジオラマを用いた実験が行われ、受講者から好評をいただいた。

(地域資料チーム 神谷 祥平)



『磐梯山噴火埋没図』



『磐梯山噴火之顛末』

堀江繁太郎展

堀江繁太郎は別号を霞泉（かせん）といい、明治 6(1873)年 6 月 21 日伊達郡東湯野（現福島市飯坂町東湯野）に生まれた。飯坂小学校高等科を卒業し、東湯野青年学事研究会を結成。その後上京して絵画研究会白馬会に学ぶ。講習会で教員資格を取得し、明治 40(1907)年 12 月から県立福島中学（現県立福島高校）の教員となり、昭和 12(1937)年に退職するまでのあいだ図画、漢文、習字などを担当した。一方、郷土史家、日本画家としても活躍し、県史跡名勝調査委員として文化財保護にも貢献した人物である。昭和 21(1946)年 4 月没。

堀江は、旅先の風景や、家族の日常、自らが勤務する福島中学の光景などが描かれた、多くの写生帳やスケッチブックを残している。今回展示したものは、それらの一部である。

また展示に併せ、9 月 14 日に、福島県立美術館主任学芸員・堀宜雄氏を講師に迎え、ふくしまを知る連続講座 3「アートクラブと堀江繁太郎」を開催した。講座後には至宝展では展示しきれなかった写生帳や折本についてギャラリートークを行った。

アートクラブとは、油井夫山と富田不二夫が中心となり福島市で結成された美術団体である。紺野三郎、竹下明治郎、大石源太郎など 12 名の会員が美術を研究し、展覧会などの発表活動を展開した。これは福島県内初の美術運動といえる。堀江もこれに参加し、明治 44(1911)年から大正 11(1922)年まで、福島市において 10 回の展覧会を行った。



『大正六年』 清水寺

『大正六年』 [1917]

京都方面への旅行を描いたもの。京都駅から見た景色や清水寺など、京都の風景が描かれてる。

『小袖曾我と羽衣と膏薬煉』 [1935]

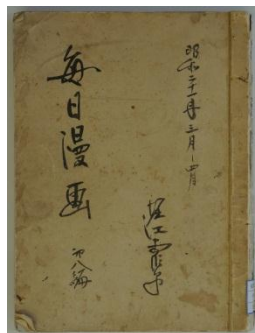
折本。タイトルは能や狂言の演目だが、後半には福島中学の水泳大会の様子が描かれている。

『毎日漫画 第八編』 1946

堀江最晩年の画帳。闇市や投票所などの日常風景が描かれており、終戦直後の庶民の生活がよくわかる。



『小袖曾我と羽衣と膏薬煉』水泳大会



『毎日漫画 第八編』 表紙(左)、闇市の様子(右)

(地域資料チーム 石川 ひとみ)

集古十種展

『集古十種』とは、全国各地の約 2,000 点の古文化財を、碑銘・鐘銘・兵器類（甲冑、旌旗、弓矢、刀劔、馬具）・銅器・楽器・文房・印章・扁額・古畫肖像・弘法大師真蹟七祖賛・定家卿真蹟小倉色紙・雪村所摹牧溪玉澗八景・名物古畫の各部類に分けて収録した古文化財図録である。

『集古十種』は老中 松平定信が編纂した。定信には、白河藩主や幕府老中という政治家として以外にも、古物の模写と蒐集を好む文化人としての側面があった。その古物を好んで書き写し、蒐集した一面が、古文化財図録『集古十種』に結びついた。

実際に定信の趣向に沿って全国各地に赴き現物調査にあたったのは、谷文晁や巨野泉祐、画僧の白雲らであった。文化財調査の手法には、臣下派遣の他に、定信自身が現物を手元に取り寄せ検分すること、旅行途上で調査を行うこともあったという。

今回展示したものは、江戸期の版木を使用して、青木嵩山堂から明治 32(1899)年 8 月 1 日に発行された再版本である。刊記に「松平家蔵版」とある。青木嵩山堂の再版本は、江戸期の『集古十種』 85 冊に「総目録」 3 冊を加えた 88 冊の大型袋綴じ和装本である。当館所蔵のものは、「碑銘目録」「鐘銘目録」「印章序目」「扁額目録」の 4 冊が欠けている。

『集古十種 兵器 馬具三』(写真左・左ページ)

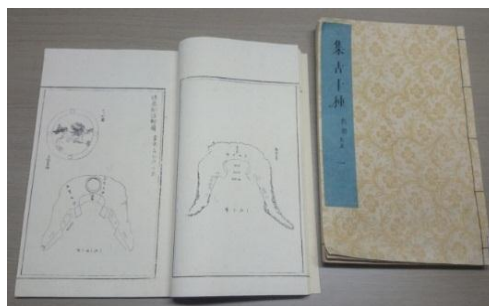
『集古十種』に「佐藤嗣信鞍 家臣高松内匠蔵」と記載されている鞍である。陸奥国信夫荘司佐藤基治の息子 継信・忠信兄弟は、平泉の藤原秀衡の命によって源義経に従って各地を転戦し、継信は屋島の合戦で戦死した。この鞍は、継信の追善のために義経が屋島寺に納め、以来継信の鞍として伝わったものだという。『集古十種』の編纂当時は、定信家臣の高松家が重宝として所蔵していた。その後諸処に伝来し、現在は、継信縁の醫王寺（福島市）で所蔵している。

11 月 16 日に、福島県立博物館主任学芸員・小林めぐみ氏を講師に迎え、ふくしまを知る連続講座 5「松平定信と『集古十種』」を開催した。

古物の消失を恐れそれに備えること。古物から昔の制を学ぶこと。後世に情報を保存・伝達すること。小林氏が挙げた『集古十種』編纂の目的だ。『集古十種』に収録されている文化財のなかには、現在では所在の知れないものや消失してしまったものが多くある。劣化・破損が進みかつての姿を失ってしまったものもある。『集古十種』によって、私たちは 200 年前の失われた情報を知ることができる。

震災以後、本県の文化財は大変厳しい環境におかれている。福島文化を残すためにはどうすべきか。『集古十種』から学べることも多いだろう。

(地域資料チーム 石川 ひとみ)



『集古十種 兵器 馬具一』(写真右)

『集古十種 兵器 馬具三』(写真左)



講座の様子

会津三方道路

会津三方道路とは、会津若松市大町四ツ角を起点に三方に向かう道路で、明治 17(1884)年に開通された。一つは北方 米沢街道、一つは南方 日光街道、一つは西方 越後街道である。現在、米沢と栃木県益子を結ぶ国道 121 号といわきと新潟を結ぶ国道 49 号は、経路の変更が加えられてはいるものの、概ね三方道路を踏襲している。

この大がかりな土木事業を推進したのは、「土木県令」と呼ばれた福島県令・三島通庸であった。富国強兵政策と中央集権化を推し進める日本政府の意向を強く受けたこの事業は、東北の産業振興、経済の発展、そして軍事道路を確保することにあつたとされる。

しかし、この道路建設は、県を賛否に二分する騒動を巻き起こした事業であった。工事のために会津地方の住人に対して過酷な労働や寄付金の徴収を行ったのである。当時活発になっていた自由民権運動を弾圧したこともあり、住民と自由党は大反対運動を繰り広げるに至った。反対運動をも抑えて、わずか 2 年、会津民の血と汗に塗れ、会津三方道路は完成された。

開通の翌年、明治 18(1885)年に発表されたひとつの画帳がある。『福島県道路風景画帖』と題されたこの作品は、三島の依頼を受け、『鮭』などの作品で知られる洋画家・高橋由一により製作された。近代土木技術を駆使して遂行された道路開削の偉業を記録するために、西洋の新しい技法を用いた高橋の絵が選ばれたとされる。高橋は、県内をスケッチ旅行して作品をまとめた。作品は絵絹に下絵をリトグラフ（石版画）で描き、水彩絵の具を使って一枚一枚美しく彩色を施して仕上げている。

高橋が構図の参考にしたと推測される写真も残されており、同時に展示を行った。『福島県下諸景撮影』は、県内の道路を中心に撮影された写真で、上埜文七郎が明治 17 年に撮影したものとされている。これらは、戦後に三島の遺族より、福島県に寄贈され、現在は当館が所蔵している。

三島は、福島県令のほか、山形県令・栃木県令を歴任しており、その中で万世大路をはじめとする道路事業や那須の開墾、西洋風建築物の建築など数々の偉業を成し遂げている。高橋由一も三島の依頼により、3 県の新道風景や街の景観を題材に多くの作品を制作した。『福島県道路風景画帖』はその一部である。他の作品も各地に残されており、今年度 10 月～12 月には、那須野ヶ原博物館において、企画展が催されるなど、近代土木の姿を伝え続けている。

(地域資料チーム 神谷 祥平)



『福島県道路風景画帖』表紙



『福島県道路風景画帖』
北會津郡若松市街ノ内大町四辻ノ圖



『福島県下諸景撮影』
第十一號
北會津郡若松町ノ内大町四ツ角ノ景

福島県史跡名勝の『鳥瞰図』

鳥瞰図とは、「高い所から見おろしたように描いた風景画または地図」（『広辞苑』第6版）であり、あたかも空を飛ぶ鳥の目から見たような眺めであることからそう呼ばれる。ほかに「鳥目図」、「パノラマ地図」、「俯瞰図」、「鳥観図」などとも言われる。

大正から昭和初期にかけて、鉄道などの交通網発達とともに、観光名勝案内としての鳥瞰図が数多く描かれた。当館で所蔵している『観光の福島県 福島県史跡名勝鳥瞰図』は、日本一の鳥瞰図絵師と謳われた吉田初三郎が描いた作品である。

右中図は『会津若松市及附近案内図』の表紙である。昭和8(1933)年に会津若松市が観光パンフレットとして発行したもので、図は青木志満六が描いた。鳥瞰図には、鶴ヶ城趾や東山温泉、第二十九聯隊練兵場等が描かれ、当時の若松市の様子が伺える。裏面には、漆器や清酒などの物産の由来及現況、会津若松市の今昔などが書かれている。

『福島電気鉄道株式会社沿線名勝案内』「福島電気鉄道沿線名勝図絵」は、大正15(1926)年に発行され、吉田初三郎の弟子であったが、独立し日本名所図絵社を旗揚げした金子常光が描いている。当時、観光名所として東北第一の神境といわれた霊山や十綱橋を中心とした飯坂温泉が詳細に描写されている。

福島電気鉄道（現福島交通）の会社の所在地長岡駅（旧長岡村、後に伊達町、現伊達市）を中心とし、電車のほかに、掛田駅から川俣駅は汽車、霊山へは乗合自動車描かれている。福島電気鉄道では、大正15年4月に電車開通しており、軽便鉄道から電車へと変化した当時の交通事情がわかる。裏面には、路線図のほか、信夫文知摺、向川原の桜、霊山など名所の解説や飯坂温泉・湯野温泉の電話帳も記載され、観光パンフレットの要素が盛り込まれている。

鳥瞰図は、地図としての要素のほか、描いた地域の特徴が際立たせて描かれている点が面白い。また、裏面には観光に役立つ情報が盛り込まれ、この時代、交通の発展とともに、観光文化が庶民の間に根付いていったことが感じられる資料である。



『観光の福島県 福島県史跡名勝鳥瞰図』



『会津若松市及附近案内図』



『福島電気鉄道株式会社沿線名勝案内』

(地域資料チーム 橋本 栄理子)

福島県立図書館移転 30 周年記念事業「図書館の至宝」展 より

参考資料一覧

錦絵に描かれた福島

- 『錦絵を読む 日本史リブレット 51』浅野秀剛／著 山川出版社 2002.9
『野馬追の里原町市立博物館研究紀要 4』野馬追の里原町市立博物館 2001
「イメージ化された浮世絵のなかの野馬追」遠藤克英／著
『福島県郷土資料情報 No.44』福島県立図書館／編・刊 2004.3
「福島県立図書館所蔵 錦絵目録」「貴重郷土資料探勝照 8 白虎隊英雄鑑」

磐梯山噴火

- 『磐梯山噴火百周年記念誌』磐梯山噴火百周年記念事業協議会／編・刊 1988.7
『共同企画展 会津磐梯山 2008』福島県立博物館／編・刊 2008.7

堀江繁太郎展

- 『福島市の文化財 福島市文化財調査報告書 第 34 集』福島市教育委員会／編 福島市教育委員会
1993
『東湯野概史』東湯野概史編集委員会／編 東湯野小学校創立百年祭実行委員会 1974
ふくしまを知る連続講座 3「アートクラブと堀江繁太郎」配布資料

集古十種展

- 『集古十種 あるく・うつす・あつめる 松平定信の古文化財調査 平成 12 年度第 1 回企画展図録』
福島県立博物館／編 福島県立博物館 2000.3
『定信と文晁 松平定信と周辺の画人たち 平成 4 年度第 3 回企画展図録』福島県立博物館／編
福島県立博物館 1992.10

会津三方道路

- 『会津とっておきの歴史』野口信一／著 歴史春秋出版 1997.5
『三島通庸と高橋由一にみる東北の道路今昔』東北建設協会 1989
『近代を写実せよ。三島通庸と高橋由一の挑戦』那須塩原市那須野が原博物館／編・刊 2014.12

福島県史跡名勝の『鳥瞰図』

- 『吉田初三郎の鳥瞰図を読む 描かれた近代日本の風景』堀田典裕／著 河出書房新社 2009.7
『吉田初三郎のパノラマ地図 大正・昭和の鳥瞰図絵師』（別冊太陽）平凡社 2002.10
『パノラマ地図の世界 自然を街を見渡す楽しみ』（別冊太陽）平凡社 2003.11
『写真でつづる福島交通七十年の歩み』福島交通 1977.9
『福島県郷土資料情報 No.51』福島県立図書館／編・刊 2011.3
「貴重郷土資料探勝照 15 観光の福島県 福島県史蹟名勝鳥瞰図」

最上 二郎（もがみ じろう）（1931－2014）

【プロフィール】

1931（昭和6）年10月30日、福島県郡山市に生まれる。金透小学校、福島県立安積中学校（現・安積高等学校）、福島大学卒業。耶麻郡西会津町立奥川小学校弥生分校、岩瀬郡岩瀬村立白江小学校、須賀川市立第二小学校など福島県内の小学校教師を務めた。福島大学空手道部師範。大武館空手道場を経営。『まぼろしの大将』（1993年刊）で第10回北の子童文学特別賞受賞。『ミナクローと公平じいさん』（1997年刊）が第7回日本動物子童文学奨励賞を受賞し、第44回全国青少年読書感想文課題図書となった。福島の代表的な子童文学者として『福島県の民話』（1978年刊）や『先生のとっておきの話 福島編』（1983年年刊）にも作品が収録されている。日本子童文学者協会創立五十周年を記念して出版された『県別ふるさと童話館7・福島の童話』（1998年刊）の編集も手がけた。また、郷土の偉人を子どもに伝える『開国と安積良斎』（1986年刊）、『女医服部けさ』（1987年刊）といった作品を記し、『ハンセン病と女医服部けさ』（2004年刊）のような研究書も執筆している。『おーい山ん子』（2012年刊）で第17回三越左千夫少年詩賞を受賞するなど、詩人としても活躍した。2014（平成26）年10月3日、82歳で逝去。

【物語】

猟師、炭焼きなど、山の暮らしの中で自然の厳しさ、とりわけ野生動物と人との共存を描いた作品が多い。『マタギ少年記』（1962年刊）、『ギターひく猟師』（1968年刊）、『ミナクローと公平じいさん』（1997年刊）では、人と熊との闘いをとおして、自然の厳しさと向き合う人間の姿を描いている。最上氏の教育実践の記録『山ん子分校 奮闘記』（2013年刊）によると、1958（昭和33）年から1960（昭和35）年に教師として初めて赴任した弥生分校での暮らしが作品の源流となっていることがわかる。『まぼろしの大将』（1993年刊）では分校での生活、生徒と先生の交流が生き生きと描かれ、後書きでは、この物語の執筆は教え子たちと交わした「三十五年ぶりの約束」であったことが明かされている。晩年、最上氏自身が“子童文学創作のほとんどがここにあり、第二の故郷といえる思い出深い場所である”¹と綴っており、弥生分校での教師生活が創作活動の多くにつながっていた。

『ミナクローと公平じいさん』（1997年刊）のあとがきでは、“日本の自然を、野生の動物たちを、どうしたらいいのだろうかー。”と問い、山奥まで開発が進む今日への憂いの中で描かれた作品であることがわかる。その問いに答えるかのように、幼年童話『ひびけ！山のうた声』（2006年刊）は動物たちの視点で描かれ、“おなじいのち、ともに生きることじゃて”という和尚さんの説教で幕を閉じている。

【詩】

子どもたちの詩とともに詩人の作品を集めた『詩のランドセル 東北編5・6ねん』（1998年刊）に「白い涙」が、『詩のランドセル 東北編3・4ねん』（1998年刊）に「どうしようかな」が、収録されている。それぞれ男子生徒、女子生徒の心情を福島の言葉で綴った詩である。雑誌『日本子童文学 第60巻第1号』（2014年2月刊）には、改訂された「どうしようかな」が“教室の詩”として採録されている。“先生のお嫁さんになっちゃおうかなあ”と考えを巡らせる、微笑まし

い少女を描写した詩である。“みんなに 似顔絵もかいてくれる”、“おもしろいお話も いっぱいしてくれる” 生徒たちに慕われた最上氏の教師としての姿が描かれた作品でもある。

晩年の最上氏は、教師として生徒と過ごした日々により思いを馳せた作品に力を注いだ。『ものがたり詩 おーい山ん子』(2012年刊)は、50年前の初任地、弥生分校の“往時を何とか今によみがえらせてみよう”として執筆された。同書は、分校の実践記録『山ん子分校奮闘記』(2013年刊)、マタギ語り『最上二郎が語る おもしろ 山の狩人物語』(2014年刊)とともに、最上氏の第二のふるさとの「山がたり」三部作とされる。

2014年5月に西会津町の弥生集落で、教え子たちによる最上氏の出版祝いを兼ねた「第2回同村のつどい」が開催された。約半世紀ぶりの再会を果たしたことで、マタギ語りの続編を執筆する意欲を掻き立てられたことが、この出版祝いの様子などを記した連載エッセイ「雑草のごとく」に記されている。そこには、“平穏に暮らす貴重な生き物同士、うまく生きてくれ！命の共生・共存こそこの大自然への感謝ではないか”²という最上氏の力強いメッセージが遺されている。

この春、『ひびけ 山んころ』がらくだ出版より出版され、遺作となった。

最上二郎作品所蔵一覧(単行本)

初版年 ()年齢	書名	出版社	請求記号
1962年(30)	マタギ少年記	理論社	LA913.8/M/3
1968年(36)	ギターひく獵師 (毎日新聞少年少女シリーズ) ※共著	毎日新聞社	913/モジ
1978年(47)	福島県の民話 (県別ふるさとの民話 10) ※共著	借成社	388/ケ/7
1983年(51)	先生のとっておきの話 39 福島編 ※共著	ポプラ社	916/セ/39
1986年(54)	開国と安積良斎 いり豆と黒船と (ふくしま子供文庫)	歴史春秋社	913/モジ
1987年(55)	女医服部けさ 人、その友のために (ふくしま子供文庫)	歴史春秋社	289/ハ
1992年(60)	キツネさわぎで日が暮れた (草炎社ともだち文庫)	草炎社	913/モジ
1993年(61)	まぼしの大將 熊越分校物語	歴史春秋社	913/モジ
1997年(65)	ミナクローと公平ひいさん (草炎社ともだち文庫)	草炎社	913/モジ
1998年(66)	詩のランドセル 東北編 3・4 ねん ※共著	らくだ出版	911/シ
	詩のランドセル 東北編 5・6 ねん ※共著	らくだ出版	911/シ
2004年(73)	ハンセン病と女医服部けさ	歴史春秋社	L289/H21/6
2006年(75)	ひびけ！山のうた声(草炎社フレッシュぶんこ)	草炎社	913/モジ
2012年(80)	ものがたり詩 おーい山ん子	らくだ出版	911/モ
2013年(81)	山ん子分校 奮闘記	らくだ出版	L371.3/M1/1
2014年(82)	最上二郎が語る おもしろ 山の狩人物語	らくだ出版	L913.6/M36/1
2015年	ひびけ 山んころ	らくだ出版	LA913.8/M1/5

【参考文献】・『日本児童文学大事典』大阪国際児童文学館、1993
・『街 こおりやま』街こおりやま社、NO. 249、1996. 1

¹ 「雑草のごとく 11 飯豊連峰の前衛鏡山登山1」『街 こおりやま』街こおりやま社、No.475、2014.11、p.50

² 「雑草のごとく 12 飯豊連峰の前衛鏡山登山2」『街 こおりやま』街こおりやま社、No.476、2014.12、p.50

(児童資料チーム 鈴木 史穂)

市町村広報誌特集記事に見る東日本大震災 H25.1.1-12.31

本稿は、福島県内の市町村から刊行されている広報誌のうち、平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」に関する特集記事を採録したものである。

なお、H23.3.11-12.31分は『当郷土資料情報 No.52』、H24.1.1-12.31分は『当郷土資料情報 No.53』に収録されている。

凡例

- ・東日本大震災に関する市町村広報誌の特集記事又は特集に準じると採録者が判断した記事を採録している。
- ・平成25年1月1日～12月31日までに発行された広報誌から採録している。
- ・記事は掲載号、ページ、記事名、特集項目名を掲載している。
- ・記事名、特集項目名は記事標題による。
- ・主に「行政機関による事業のおしらせ」や「行政機関による措置のおしらせ」を取り扱う記事は採録していない。
- ・概ね1ページに満たない特集記事は採録していない。
- ・広報誌を補完するために発行される、いわゆる「お知らせ版」については採録していない。
- ・紙面上の都合により、本誌では「相双・いわき」地域の広報誌のみ集録している。

相双・いわき地域

● 相馬市

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	2-3	2013年 年頭のご挨拶	相馬市長 立谷秀清、 相馬市議会議長 佐藤満
3月	4-5	新しい相馬へのつち音 復興に向けた主な整備事業	
4月	2-5	平成25年度のまちづくり—重点政策の中から新規事業を中心に—	
5月	2-4	これまでの除染実施状況	
7月	4-5	市内空間放射線量率500mメッシュ調査	
8月	2-5	平成24年度 相馬市でのホールボディカウンターによる被ばく検診結果	
11月	2-5	復興と市民団結のシンボル 新しい市民会館の落成式	相馬市民会館施設概要とご利用案内

● 南相馬市

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	2-3	市民の皆様へ	復旧事業を強力に推進し、地域の活性化を生み出す 南相馬市長 桜井勝延、 一日も早い復興に向けて 南相馬市議会議長 平田武
	5	警戒区域と帰還困難区域の通過	
	6-7	復興レポート	南相馬ソーラー・アグリパーク建設着工！、 安全に管理されます 除染廃棄物と災害廃棄物、 被災車両の撤去・処分手続き開始
	10	小高区の現状レポート	試験搬入が始まりました、 新年への準備整う、 冬の使者 ハクチョウ飛来、 小高区民 避難の状況
2月	4	復興レポート	南相馬市民屋内プール 再開しました！
3月	4-5	復興レポート	平成25年産稲の作付けを見合わせます～稲の作付け再開に向けて～
	6-7	小高区の現状レポート	復興に向けて説明会を開催
	8	南相馬市地域防災計画見直し方針	人命”最優先”の計画に
4月	2-3	祈りに包まれ復興を誓う	南相馬市東日本大震災追悼式
	4-5	復興レポート	がんばっています！地元農産物
5月	2-3	復興レポート	25年度農地除染始動
	14	小高区の現状レポート	がれき撤去・室内清掃をサポート

6月	4-5	復興レポート がれきの山が消える	塚原地区には1万6,400㎡のがれきを集積、80人体制で処理 夏には一掃、がれきの減容化が今後の課題
7月	4-5	復興レポート	旧警戒区域等の生活ごみクリーン原町センター搬入開始
	8	小高区の現状レポート	笑顔があふれるCafe'いづくや、季節の花が皆さんを出迎え
8月	4-6	復興レポート	災害公営住宅の整備計画、避難指示解除準備区域・居住制限区域 お盆の特例宿泊
9月	4-7	復興レポート	帰還促進のための仮設住宅入居受付を開始、災害公営住宅入居仮申込みを受付中、環境未来都市 再生可能エネルギー基地の整備、再生可能エネルギー基地の動き 風力・太陽光の安全・安心なまち、特定環境影響評価書の縦覧について
	8-9	「より确实」に「より迅速」に皆さんのもとへ防災情報や発信手段を拡充しました	
	10	小高区の現状レポート	小高区駅前通りを彩る
10月	2-3	復興レポート	小高区の除染が開始、除染方法と仮置場管理
	4-7	国と東京電力による市民説明会	賠償・補償、除染、避難指示解除、その他の質問、健康管理
11月	8-9	復興レポート 除染の現状報告	片倉・押釜・高倉・檜原地区の除染前後の対比、これまでの除染で見えたこと、今後の除染の動き
12月	2-5	復興レポート	今後の除染の動き、南相馬市復興計画 前期実施計画の進捗

● 広野町

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	2-3	広野町での生活を取り戻す年にするために	広野町町長 山田基星
3月	2-5	ふるさとの復興に向けて	
4月	6-9	町長施策方針	
	12-13	一般住宅除染の検証 安全・安心な町を目指して	
7月	4-5	第2回広野町議会定例会 復旧から復興へ	
8月	2-3	災害公営住宅の建設が着手 住まいの復興に大きな一歩	
11月	4-5	3年ぶりの収穫、出荷へ	安全安心への対策について、農地除染について、全国からの声
12月	4	駅東側開発 確実に前へ	

● 檜葉町

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	2-3	年頭のごあいさつ	町長 松本幸英、檜葉町町議会議員 山内左内、檜葉町教育長 高橋尚子
	4	経済同友会にて復興について講演	
	5	会津美里町の避難者支援事業QUOカード贈呈式	

2月	5	安倍首相へ要望書提出	
	6	石原環境大臣と共に除染現場を確認	
3月	3	新生ならはに向けた要望活動	
4月	5	平成24年度東日本大震災犠牲者追悼式	
5月	3-4	保管庫の現地調査について	
6月	1-2	檜葉町復興計画(第二次)を策定	1 目標と基本理念、 2 時期区分
7月	1-2	中間貯蔵施設(保管庫)の現地調査計画について説明会が開催されました	
	3-4	帰還困難区域の特別通過交通について	
8月	1 5-6	保管庫の現地調査着手について 復興へ向けた要望活動	
9月	5	常磐線広野一竜田駅間再開	
10月	9	若者たちと町長の懇談会～檜葉の復興を目指して～	
	10	福島原子力発電所所在町協議会長に町長が就任しました	
11月	3	除染の現状と今後の対応について	1. 除染の現状、 2. 今後の対応
	2	中間貯蔵施設(保管庫)の調査状況について(速報)	1. 現地調査・ボーリング調査等について、 2. 環境調査について、 3. 中間貯蔵施設安全対策検討会、 4. 中間貯蔵施設環境保全対策検討会、 検討結果取りまとめ概要

● 富岡町

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	2-3	新年のごあいさつ	富岡町長 遠藤勝也、 富岡町議会議員 宮本皓一
	4	富岡町行政区長会開催 警戒区域見直し案を報告	
	8-13	TOMIOKA桜通信 第9号	
2月	8-13	TOMIOKA桜通信 第10号	
3月	2-9	二度目の3. 11	富岡町の現状と課題、 故郷を取り戻すために 富岡町長遠藤勝也、 震災後の主な出来事、 富岡町の「現在」と「未来」を思う4人の方を紹介します。 避難生活が続く中、前を見つめ歩き続ける皆さんの声をお届けします
	12-17	TOMIOKA桜通信 第11号	
4月	2-5	3月25日午前0時避難指示区域見直しが実施されました	無用な被ばくを防ぐため一人ひとりが線量管理を、 私たちが、富岡町を守ります。 富岡町警戒区域再編に伴う帰還困難区域図
	10-11	富岡町東日本大震災追悼式・咲くら希望の集い	
	20-25	TOMIOKA桜通信 第12号	
5月	10-15	TOMIOKA桜通信 第13号	
6月	12-17	TOMIOKA桜通信 第14号	
7月	2	国へ復興に関する要望書を提出する	
	8-11	TOMIOKA桜通信 第3号	
8月	2-3	賠償、除染と並ぶ重要課題 生活再建へ急がれる災害公営住宅整備	災害公営住宅の設置状況
	8-13	TOMIOKA桜通信 第16号	
9月	8-13	TOMIOKA桜通信 第17号	

10月	10-15	TOMIOKA桜通信 第18号	
11月	2-7	富岡町住民意向調査・富岡町子どもアンケート結果速報	
	18-23	TOMIOKA桜通信 第19号	
12月	2	避難生活の支援や町の将来のために、富岡町復興まちづくり計画を策定	富岡町復興まちづくり計画とは、計画策定の経過、町民の意見を集約・反映、復興公営住宅(災害公営住宅)の状況
	10-15	TOMIOKA桜通信 第20号	

● 川内村

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	2	平成二十五年 新年のご挨拶	川内村長 遠藤雄幸
2月	2-3	安部晋三内閣総理大臣が川内村を訪問される！感動と元気をいただく！	
3月	2-3	帰村宣言から一年	川内村長 遠藤雄幸

● 大熊町

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	2-3	新年のご挨拶	新たな「ふるさと大熊町」を目指して 大熊町長 渡辺利綱、 「落ち着いて生活できる環境整備を」大熊町議会議員 千葉幸生
	4-5	大熊町の区域が再編されました	
2月	3-5	中間貯蔵施設の事前説明会を開催しました	貯蔵するものはなんですか？、 どのような施設ですか？、 調査の候補地はどこですか？、 調査の内容は何ですか？、 どのような安全対策をとるのですか？、 事前調査に関するQ&A
3月	2-5	平成24年度総合健診「こころの健康に関するアンケート」ご協力ありがとうございました	
4月	2-3	わが町『おおくま』の今	
	4-5	住民意向調査「避難期間中の住まいの確保について」の調査結果が公表されました。	
	6-7	大川原・中屋敷地区への立ち入りルートにご注意ください	
5月	10-13	おおくまふれあい通信	
6月	2	中間貯蔵施設の事前調査が行われています	
	6-9	おおくまふれあい通信 第2号	
7月	4-8	おおくまふれあい通信 第3号	
8月	2-3	大川原地区での先行除染結果について	
	4-5	長期避難者の生活拠点の検討に係る個別協議会(第2回いわき市部会)の開催について	
	10-14	おおくまふれあい通信 第4号	
9月	2-3	長期避難者等の生活拠点の検討に係る個別協議会が開催されました	第1回郡山市部会、 第1回会津若松市部会
	7-11	おおくまふれあい通信 第5号	
10月	5-9	おおくまふれあい通信 第6号	
11月	2	町民の皆様へ	町民の皆様へ 大熊町 渡辺利綱
	14-18	おおくまふれあい通信 第7号	
12月	6-10	おおくまふれあい通信 第8号	

● 双葉町

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	2	計画から行動へ	双葉町長 井戸川克隆
	3	絆—きずな—	双葉町議会議長 佐々木清一
3月	3	冥福を祈り 復興を誓う —東日本大震災双葉町追想式—	
	5	東日本大震災から二年目を迎えて	双葉中学校三年 平岩佳那子
5月	28-31	ふるさと絆通信FUTABA 第1号	
6月	3-5	双葉町復興まちづくり計画(第一次)案の報告について	双葉町復興まちづくり計画(第一次)の概要、策定の趣旨、基本理念、基本的な考え方、復興の進め方、復興・再興に向けた道のり
	17-23	ふるさと絆通信FUTABA 第2号	
7月	2-3	復旧・復興の拠点として	
	14-19	ふるさと絆通信FUTABA 第3号	
8月	8-9	原子力損害賠償紛争審査会現地調査・審査会	
	17-23	ふるさと絆通信FUTABA 第4号	
9月	2	大震災から2年6カ月を迎えて —皆様の生活再建を目指して—	
	22-27	ふるさと絆通信FUTABA 第5号	
10月	18-23	ふるさと絆通信FUTABA 第6号	
11月	2	皇太子ご夫妻喜久田仮設住宅をご訪問	
	24-29	ふるさと絆通信FUTABA 第7号	
12月	6-7	双葉町復興推進委員会がはじまりました	第一回双葉町復興推進委員会を開催しました、第一回双葉町津波被災地域復興小委員会を開催しました
	22-27	ふるさと絆通信FUTABA 第8号	

● 浪江町

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	2-3	新年のあいさつ	日々新たにして、また日新たなり 浪江町長 馬場有、新年を迎えて 浪江町議会議長 吉田数博
	16-23	浪江のこころ通信 第19号	千年に一度の体験だからこそ、心温まる話は後世まで伝えておきたい、浪江町中央公民館の高齢者学級の皆さんに届けたいメッセージ、『人との絆』の大切さが身にしみた震災、浪江町、福島県のつながりを大事にしたい、「ここまで頑張ってきたんだから」、被災者なりの意思を持って、子どもたちの未来のためにできることを、生かされているということを実感しています、「鮮度に自信、味にまごころ」寿し松開業
2月	21-27	浪江のこころ通信 第20号	今でも心は晴れません、浪江町民の絆をつなげ広げたい、我が家のいいところは、決断と行動力です、不安も感謝の気持ちも、喜びもごちゃ混ぜの日々でした、「ありがとう高島」みんなで集まれる場所がある、強いつながりで、まずは1勝！

3月	2-3	震災から2年	浪江町長 馬場有
	17-23	浪江のこころ通信 第21号	仲間と一緒に飲みながらまた浪江の未来やユメを語りたい、諦めきれない思いを胸に抱いて・・・、一緒にふくしま駅伝を走りませんか、根は茨城で、心は福島で、私の心に咲いた希望という一輪のひまわり、長年住み慣れた自分の家がある浪江町に早く帰りたい
4月	2	東日本大震災追悼式	
	3	なみえ3.11復興のつどい	
4月	26-31	浪江のこころ通信 第22号	富沢酒店頑張っています、「浪江のキャニオンワークスは、今日も元気に頑張っています」そのことを浪江の皆さんに伝えたい、避難生活の思いを後世に伝えたい、私は人を元気にすることが大好き！、もっと笑いあいたい
	2	町民の皆様へ	浪江町長 馬場有
5月	17-23	浪江のこころ通信 第23号	「待っているのではなく、自分たちのこれからは自分で決めることが大切だと思う」—1人ひとりの生活再建に求められることとして—、町のみなさんの「かけはし」に、「青春の今を生きています」—両親の思いも感じながら、明日に向かって進んでいます—、未来を信じて前に進みたい、あの日の記憶と共に、子どもの笑顔と夫の頑張り、そして東北人の絆に支えられて、いつまでも家族一緒に
	18-23	浪江のこころ通信 第24号	浪江町が3つの区域編成されたことが残念 —孫たちが帰ることのできる実家を早く再建したい—、子どもたちの成長していく姿が楽しみです、前へ進んでいきたい、今の自分を育ててくれた周りのみんなに感謝し、自分も伝える側として成長していきたい、なんでこんな目に遭うのかと、何度も何度も思いましたよ
7月	12-13	復興公営住宅の整備状況(福島県からの情報)	
	24-31	浪江のこころ通信 第25号	宮城県仙南地域で交流会を開きたい！ —2年経ち、益々感じる浪江の皆さんのありがたさ—、今は無理でも、娘や息子が大人になったら夫婦2人で生まれ育った浪江に帰りたい、とうろろ流しに「浪江に早く帰れるように」と願いを込め、教えを実践しながら、毎日を過ごす、みんなで支え合える場をつくりたい、「来る者拒まず」の心意気で、自治会の仕事をしています、毎日を過ごすことに精一杯だった2年間 —浪江を思いつつも、この土地の人間になろうとしてきたことに気づく—
8月	19-23	浪江の心つうしん 第25号	今は、とても落ち着いています、今の夢は、地元浪江で働くこと、京都そして茨城県での新しいスタートへ、失ったものよりも得たものの方が多いと信じたい—幼いころからの夢に向かってこれからも頑張っていく—
9月	2-3	復興に向けて 浪江町復興計画策定委員会による新たな検討体制がスタートしました	
	19-23	浪江のこころ通信 第26号	「苦労は考えない」(株)叶屋浪江SS町内での事業再開第1号、「なみえ」を子どもたちに残していきたい、再び海の仕事をできるだろうか。不安と期待が交錯します、山形からふるさとの浪江の復興を思い続けています

10月	2	町民の皆さんへ	浪江町長 馬場有
	11	復興に向けて 浪江町復興計画策定委員会「まちづくり計画検討部会」における検討状況をお知らせします	
	22-27	浪江のころ通信 第28号	明るく前を向いて、長生きしよう、皆さんから元気をもらいながら、忘れずにあきらめずに伝えて生きよう、今、私に課せられた使命～心のキャッチボールから見えてきたもの～、いつか、再び家族全員で暮らしたい
11月	2	町民の皆さんへ	浪江町長 馬場有
	3-5	住民意向調査集計結果 速報版	
	22-27	浪江のころ通信 第29号	“自分を耕して、自分に種をまく”をモットーに～ビーズアートジャパン大賞2013佳作受賞～、田畑を耕したい～恵み多き浪江に戻れるように～、生まれ育った関西よりも、浪江町は、大切なふるさとです、帰れるようになったけれども、未だ住めないふるさとを思う、天から与えられたこの命、天寿を全うしたいですね
12月	2	町民の皆さんへ	浪江町長 馬場有
	23-27	浪江のころ通信 第30号	甲子園の先導役を務めた思い出を胸に、夢に向かって、ふるさとを次の世代に繋ぎたい、浪江で“一人のできる花屋”を再開するのが夢、「浪江のころプロジェクト」取材協力者情報交換会を開催しました

● 葛尾村

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	2	「新生葛尾村」の誕生に向けて	葛尾村長 松本允秀
	3	持続可能な議会運営を目指して	葛尾村議会議長 杉本宣信
2月	2-3	先行除染事業 みどり荘と中学校の除染が完了しました	帰還支援復興公営住宅の建設
3月	2-3	根本復興大臣に要望書を提出	
4月	4-7	平成25年3月22日午前零時 避難指示区域の見直し	インフラ復旧の工程表
5月	2-9	第四回住民懇談会	村長あいさつ、村の復興計画について、区域見直しと解除見込み時期について、葛尾村への立ち入りのしおり、除染について、賠償基準について、財物賠償(償却資産と棚卸資産)について、Q&A
	10-11	葛尾村役場三春出張所新仮設庁舎完成!	庁舎案内図
6月	2-3	葛尾村内本格除染開始	主な除染方法
	4-5	自由民主党福島県議会議員団に要望書を提出しました	
7月	2-3	井戸掘削の事前調査が行われています	
8月	2-3	平成25年度第1回住民懇談会	葛尾村住民懇談会の質問項目(中間報告)
9月	2-3	葛尾村復興公営住宅	
10月	2-3	復興の励みへ 松本允秀葛尾村長国際表彰受賞	グリーンクロスインターナショナルとは?、グリーンスター賞とは?、受賞への経緯、授賞式でのスピーチ
11月	2-3	浮島環境大臣政務官、小泉復興大臣政務官へ要望書を提出	「早期の復興に向けた各種支援について」の要望内容

12月	2-3	一時帰宅支援バスの試験運行が始まっています！！	
-----	-----	-------------------------	--

● 新地町

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	2-3	2013年 新年のごあいさつ	新地町長 加藤憲郎、 新地町議会議員 目黒静雄
	4-5	仕事の復興に向けて 農地・漁港の復興	
	6-7	社会経済基盤の復興に向けて 道路・河川の復興①	
	8-9	社会経済基盤の復興に向けて 道路・河川の復興②	
2月	2-5	住まい再建事業の柱 新たな住宅団地の造成始まる	7カ所の新たな住宅団地造成が一斉に始まり、みんなで進めた新たな住宅団地計画、海・里・山と調和したコンパクトな町づくり
3月	2-7	住まいの復興に大きな一歩	愛宕東災害公営住宅の建設が始まりました、愛宕東地区災害公営住宅のコンセプト 地域をつなぐ桜坂、被災高齢者共同住宅
4月	4	国立環境研究所と復興と環境都市で連携・協力	
5月	6	駒ヶ嶺原災害公営住宅(仮称)の造成、建築が始まりました	
6月	2-3	忘れてはいけない思いを 紙芝居にのせて 世界でたった一つの物語。	
	4-5	伝えたい思いを 詩に込めて 世界でたった一つの言葉。	
	6	横浜市の土を復興事業の資材に利用	
	7	復興の弾みに 農作業の効率化でさらなる農業振興を	
8月	2-5	住まいの再建を願い	愛宕東、原災害公営住宅と、被災高齢者共同住宅の建設が進んでいます、高まるコミュニティ再建意欲、集落コミュニティベースに分散配置
9月	2	防災集団移転 富倉団地 宅地を引き渡し	
10月	9-12	新地町空間放射線量率メッシュ調査の結果	
12月	2-11	農業・漁業の正常化へ 農マライゼーション	農業をとりまく課題と解決へ向けた新たな挑戦、安心して安全な特産品の発信、新しい農林水産業のカたち6次産業化

● 飯館村

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	2-3	年頭のごあいさつ	飯館村長 菅野典雄、 飯館村議会議員 佐藤長平
	4-7	新春特集 元気を発信！「までいにかんばっています」	純米大吟醸「飯館」復活、営業再開お客さんとの絆をつなぐ、飯館牛のブランドを守る
2月	2-5	村外・村内拠点についての意向調査結果速報	およそ2割が「村外子育て拠点(仮称)」に入居希望
3月	3	復興計画第3版(案)の答申を受ける	村外子育て拠点、平成26年3月完成を目指す、答申で提案している主な計画

4月	6-7	いいてまでいな復興計画第3版(案)まとまる	今後、復興計画に基づき土地利用を見直します、復興を支える4つの重点施策
	18	除染 美しい飯舘村を取り戻すために	クリアセンターの空間線量率をお知らせします
5月	2-5	農業に生きる までいブランドの再生を目指して	周りのみなさんとの関わりを大事にしています、一日でも早く地元で活躍したいです、未知の世界の不安もあるが楽しみもあります、農業は楽しくやりたいです、植物に関わる仕事をし続けたいです、土いじりを楽しく続けていきたいです
6月	10-11	除染 美しい飯舘村を取り戻すために	村内の除染の状況をお伝えします、村が除染を行う須萱地区除染のようす
7月	11	除染 美しい飯舘村を取り戻すために	除染した水田で田植え 帰村後の営農再開に向けて
8月	4-5	復興計画の実現に向けて	村外子育て拠点の整備が始まります、大火山に太陽光発電所を建設します
	13	除染 美しい飯舘村を取り戻すために	村内の除染の状況をお伝えします
9月	7	除染 美しい飯舘村を取り戻すために	大久保・外内行政区でも除染作業始まる
10月	19	除染 美しい飯舘村を取り戻すために	国による除染工程の見直しが行われる
11月	4-10	村民一人ひとりの復興をめざして	飯舘住民アンケート集計結果から考える、多世代家族が考える それぞれの復興、復興の足掛かりをつくる、いつか迎える避難指示解除とその先を見ずえて
	11	復興 美しい飯舘村を取り戻すために	将来への期待込めて・稲刈り
12月	8-9	復興 美しい飯舘村を取り戻すために	除染後の農地で栽培したコメ すべて「基準値以下」、同意進む除染・居久根伐採

● いわき市

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	2	年頭のことば「ふるさといわき」の再生に向けて～日本の復興を「いわき」から～	いわき市長 渡辺敬夫
	3-5	～日本の復興を「いわき」から～	復興元年 第4回いわきサンシャインマラソン
3月	6-7	災害時の応援協定を締結	
5月	2-3	原子力災害に備えた防災計画・避難計画を策定	計画策定の経過、地域防災計画(原子力災害対策編)、原子力災害避難計画【暫定版】、今後の取り組み
	4-5	本格除染を実施しています	除染実施のしくみ、新しい除染実施計画、新除染実施計画の特徴、除染の課題と今後の予定
	6	久之浜町末続・金ヶ沢地区移転先の造成工事始まる	防災集団移転促進事業とは、二地区の事業概要
	7	いわきの復興に向けた教育メッセージ	これまでの主な取り組み、今後の展望
6月	2-5	放射線に対する取り組みと今後について	内部被ばく検査等放射線健康管理対策、農作物に関する放射性物質検査など
	12-13	今年度末の復旧完了を目指して	契約事業ベースの進捗率は約八十四%、一部遅延の事業も発注はおおむね実施

7月	2-3	「ふくしま復興祭」を開催	
	4	災害公営住宅の入居意向調査結果まとまる	入居希望者が前回の結果よりも増加、入居戸数は今後も変動
	5	防災集団移転の移転先団地の引き渡し手続きを開始	市内初となる移転先団地の引き渡し、津波被災地の早期復興に向けて
8月	2-3	8月31日(土)市総合防災訓練を実施	地域住民の皆さんが主体となる実践的訓練、市内震度「六強」、「大津波警報」を想定、各訓練のポイント
	6-7	小名浜と三和でまちづくり懇談会を開催	夢をもち 夢にむかって 復興する小名浜地区をめざして、自然が輝き 人が輝き まちも輝く 三和の里づくり
9月	2-3	21世紀の森公園内に災害時拠点施設を整備	21世紀の森公園は本市の防災活動の拠点、救援物資の集積・分配機能を担う新たな施設、平常時は多目的屋内運動場として活用
	4	津波で被災した住宅の再建を支援	
	5	ふくしま産業復興投資促進特区(農林水産業分野)の活用を	
	6	子どもたちの運動機会を確保するために	子どもの元気復活交付金を活用、いわき市では九事業を計画
10月	2-5	災害公営住宅入居者の募集を開始	
	6	市防災メール配信サービスの運用を開始	
11月	4-5	震災からの生活再建・住宅再建を支援	

(地域資料チーム 神谷 祥平)

福島県関係書誌の紹介・2014

このリストは、当館で所蔵する2014年1月から12月までに刊行された福島県関係の資料のなかで、1つの主題や人物について20以上の文献を紹介しているものを集成した書誌です。(一部の主題は20以下でも収録しています)

主題編と人物編に区分し、それぞれ主題、人名の50音順、発行年月順に配列しました。なお、主題は検索の便宜を優先して付けましたので、厳密な体系化は考慮していません。

2014年以前発行資料で、「福島県関係書誌の紹介・2013」に未収録のものも併せて集録しました。

特定の主題、人物についての文献リストとして活用していただければ幸いです。

凡例

主題

⇨関連主題

- ・(掲載数) 項目
「論文名」 編著者 『資料名』 編著者
出版者 発行年月 項目掲載頁
*備考

主題編

会津

⇨紀行

- ・(19) 参考文献
『イザベラ・バードの東北紀行 会津・置賜篇 『日本奥地紀行』を歩く』 赤坂 憲雄/著 平凡社 5月 p202-203
・会津は、石仏、方言をもみよ

会津坂下町

- ・(55) 参考・引用文献
『会津坂下』 歴史春秋出版 11月 p124-125

会津美里町

- ・会津美里町は、民話をもみよ

安積疏水

- ・(15) 参考資料
『資料でみる安積疏水 灌漑・発電・上水道』 郡山市歴史資料館/[編] 郡山市歴史資料館 10月 [p.11]

医学・医療

⇨太田総合病院

- ・(68) 業績
『太田総合病院学術年報 第49号』 太田総合病院 9月 p10-19,65-66
*業績のうち、発表論文数を採録

⇨福島県立医科大学

- ・福島県立医科大学業績 論文・著書・研究発表等
『福島県立医科大学業績集 平成24年』 福島県立医科大学附属学術情報センター 3月 p1-574

いわき市

- ・(151) 参考資料
『いわき市勿来地区地域史 3・下巻 先人と未来人の絆を紡ぐ歴史を今に 地誌(昭和20年～現代)、東日本大震災、人物、地名』 いわき市勿来地区地域史編さん委員会/編 いわき市勿来地区地域史編さん委員会 3月 p400-404
・(21) 関連(参考) 文献
『いわき四藩のお殿様 平成26年度 いわき総合図書館企画展示 平・泉・湯長谷・窪田藩、藩主の変遷』 いわき市立いわき総合図書館/編 いわき市立いわき総合図書館 6月 p14

⇨内藤家

- ・(33) 参考文献
『藩領と江戸藩邸 内藤家文書の描く 磐城平、延岡、江戸』 日比 佳代子/編 明治大学博物館 10月 p77
・いわき市は植物・植生をもみよ

いわき短期大学

- ・(14) 研究活動報告(平成25年1月1日～12月31日)
『いわき短期大学研究紀要 47』 いわき短期大学 3月 p81-88
*研究活動報告のうち、刊行数を採録

いわき明星大学

- ・(73) 教職員名簿(2013年10月1日現在)ならびに業績リスト(2012年11月～2013年10月31日)

『いわき明星大学科学技術学部研究紀要 27』いわき明星大学 3月 p66-77
*業績のなかの書籍、論文数を掲出

太田総合病院

・太田総合病院は、医学・医療をみよ

尾瀬

・(22) 書籍等の参考資料
『尾瀬の博物誌』 大山 昌克／著 世界文化社 7月 p190-191
・尾瀬は植物・植生をみよ

歌舞伎

・歌舞伎は、芸能をみよ

看護学

⇔福島県立医科大学

・(49)業績一覧(2012年1月-12月)
『福島県立医科大学看護学部紀要 16』
福島県立医科大学看護学部 3月
p77-84
*業績一覧のうち刊行数を採録

紀行

・紀行は会津をみよ

芸能

⇔歌舞伎

・(29) 参考文献
『会津の歌舞伎史を訪ねる 歴春ふくしま文庫 42』渡部 康人／著 歴史春秋出版 1月 p178-179

憲法

・(71) 主要参照文献
『フクシマで“日本国憲法<前文>”を読む 家族で語ろう憲法のこと 福島大学ブックレット『21世紀の市民講座』
金井 光生／著 公人の友社 2月
p90-93

考古学

・(34)福島県
『日本考古学年報 65』日本考古学協会 5月 p149-153
・(83) 平成24年度福島県考古学関係文献目録
『福島考古 第55号』福島県考古学会
2013年8月 p81-84

郡山市

・(24) 主な参考文献・資料
「郡山市における明治以後の都市域の変容」高橋康彦／[著]『郡山地方史研究第44集』郡山地方史研究会 3月
p40-41

災害

・(171) 都道府県別一覧 福島県
『平成災害史事典 平成21年～平成25年』日外アソシエーツ 3月
p451-454

雑誌

・(32) 参考資料一覧
『雑誌の創刊号で見る大正ロマン～三猿文庫より 平成24年度 企画展示』
いわき市立いわき総合図書館／編 いわき市立いわき総合図書館 いわき
2012年9月 p.6

写真集

・(41)おもな参考文献
『相馬・双葉の昭和 写真アルバム』いき出版 2月 p277
・(27)おもな参考文献
『白河・須賀川・石川の昭和 写真アルバム』いき出版 9月 p279

植物・植生

・(40) 引用文献
「東日本大震災前後の福島県の海岸の植生と植物相の変化および植生や植物多様性の保全の状況」黒沢高秀／[著]
『東日本大震災による津波が海岸植生に及ぼした影響：再生と保全に向けて』
植生学会 3月 p.58-60

⇔いわき市

・(255) 引用文献
『いわき植物誌』湯沢 陽一／著 歴史春秋出版 10月 p603-608

⇔尾瀬

・(32)書籍等の参考資料
『尾瀬の博物誌』 大山 昌克／著 世界文化社 2014.7 p.190-191

⇔白河市

・(32) 引用文献

『南湖の植物(中間報告)』 黒沢 高秀
／編集 福島大学共生システム理工学
類生物多様性保全研究室・南湖植物研究
グループ 2007年2月 p29-30

・(70) 引用文献

『南湖の植物 IV』 黒沢 高秀／編集
福島大学共生システム理工学類生物多
様性保全研究室・南湖植物研究グループ
2010年3月 p40-43

食文化

⇔会津藩

・(22) 参考引用文献

『古文書にみる会津藩の食文化』 平出
美穂子／著 歴史春秋出版 1月
p238-239

書誌

・(111) 「福島県関係書誌の紹介・2013」 佐 藤加与子 p21-27 (『郷土資料情報』 No. 54 福島県立図書館 3月に所収)

・(23) 『書誌年鑑 2014』 中西裕編 日外ア ソシエーツ 12月

*井深梶之助(p30), 「いわき市立草野心
平記念文学館[館報]」(p34), 大熊町(p56),
原子力損害賠償措置(p145), 「こおりやま
文学の森通信」(p159), ジェイラップ(福
島ダ第一原子力発電所事故)(p187), 新島
八重子(p345), 野口富蔵(p365), 東日本大
震災(p380-381), 被災者支援(p382), 平野
小剣(p386), 福島県(p392), 「福島県教育」
(p392), 福島原子力発電所事故
(p392-393), 放射線(p414), 放射線障害
(p414), 放射線廃棄物(p415), 放射線防護
(p415), 三島通庸(p431), 三春町(p434), 山
本覚馬(p451)の書誌が掲載。「書誌解説」
に東日本大震災(p501), 三春町(p507)

白河市

・白河市は、植物・植生をみよ

新聞

⇔福島民友新聞社

・(16) 参考文献

『吾等は善き日本人たらん』 町田 久
次／著 歴史春秋出版 7月 p.201

石仏

⇔会津地方

・(25) 参考文献

『会津の野仏 歴春ふくしま文庫 40』
滝沢 洋之／著 歴史春秋出版 6月
p178-179

相馬市

・相馬市は写真集をみよ

只見線

・只見線は、鉄道をみよ

伊達市(保原町)

・総目録

『郷土の香り 第47集』 保原町文化財
保存会 3月 p145-171

伊達市(霊山町)

・雑誌霊山第19号までの内容一覧

『雑誌 霊山 第20号』 雑誌霊山を発行
する会 6月 p87-100

鉄道

⇔只見線

・(42) 参考文献

『只見線敷設の歴史』 一城 楓汰／著
彩風社 2月 p202

蔵書目録

・(140) 福島大学総合教育研究センター受け
入れ資料目録(27)(2013.4.1~2013.9.30)

『福島大学総合教育研究センター紀要
16』 福島大学総合教育研究センター 1
月 p85-89

・(97) 福島大学総合教育研究センター受け入
れ資料目録(28)(2013.10.1~2014.3.31)

『福島大学総合教育研究センター紀要
17』 福島大学総合教育研究センター 1
月 p107-110

内藤家

・内藤家は、いわき市をみよ

東日本大震災

・(10) 参考文献

『記者たちは海に向かった 津波と放
射能と福島民友新聞』 門田隆将／著
KADOKAWA 3月 p339

- ・(2678) 『3.11の記録 テレビ特集番組篇 東日本大震災資料総覧』 原由美子／共編 日外アソシエーツ 1月 1冊
*東日本大震災発生以降2013年6月までの間に地上波で全国放送された特集番組2,113件、岩手・宮城・福島県の民放局の番組565件を収録。

福島県立医科大学

- ・福島県立医科大学は医療と看護学を見よ

福島第一原子力発電所事故

- ・(108)参考図書 『日々被ばくする中で (東電)福島第一原発の爆発』 清野憲一郎／著巻 2月 p80-82
- ・(18)参考文献 『原発敗戦 危機のリーダーシップとは 文春新書』 船橋洋一／著 文藝春秋 2月 p.279-280
- ・(24)本書のもとになった論文など 『自治体再建 原発避難と「移動する村」ちくま新書』 今井照／著 筑摩書房 2月 p.235-236
- ・(8)参考文献,(23)参考文献 『フクシマ発復興・復旧を考える県民の声と研究者の提言 Fh選書 Fukushima - hatsu|課題と争点|』 星亮一／ほか著 批評社 2月 p174,224-226
- ・(162)主要参考文献 『津波と原発 講談社文庫』 佐野眞一／[著] 講談社 2月 p291-299
- ・(29)引用・参照文献 『共生の法社会学 フクシマ後の<社会と法>』 塩谷弘康／著 法律文化社 4月 p198-199
- ・(78)参考文献一覧 『東日本大震災市民社会による支援活動 合同レビュー事業検証結果報告書 国際協力NGOの視点から』 国際協力NGOセンター／編 国際協力NGOセンター 5月 p138-142

- ・(166)主要参考文献 『戦後史のなかの福島原発 開発政策と地域社会』中嶋久人／著 大月書店 7月 p219-230
- ・(259)参考文献 『原発事故環境汚染 福島第一原発事故の地球科学的側面』 中島映至／編 東京大学出版会 9月 p283-302
- ・(38)主な参考文献 『汚染水はコントロールされていない 東電・規制委・政府の最新公表データを読み解く』荻野晃也／著 第三書館 10月 巻末
- ・(27)主な参考文献 『さまよえる町 フクシマ曝心地の「心」の声を追って』 三山喬／著 東海教育研究所 11月 巻末[p.302]
- ・(48)参考文献 『フクシマから日本の未来を創る 復興のための新しい発想 早稲田大学ブックレット「震災後」に考える』松岡俊二／編 早稲田大学出版部 2013年12月 p149-151

福島大学

- ・(32)新聞で見る福島大学地域連携活動の記事 『福島大学地域創造支援センター年報2013』 福島大学地域創造支援センター 2月 p99-131
- ・福島大学は、新谷崇一、小島定、安田尚をもみよ

福島民友新聞社

- ・福島民友新聞社は、新聞をみよ

文学

- ・福島県文学賞 受賞者 『最新文学賞事典 2009-2013』 日外アソシエーツ 4月 p62-66
- ・吉野せい賞 受賞者 『最新文学賞事典 2009-2013』 日外アソシエーツ 4月 p82-83
- ・中山義秀文学賞 受賞者 『最新文学賞事典 2009-2013』 日外アソシエーツ 4月 p134-135

- ・福島県短歌賞 受賞者
『最新文学賞事典 2009-2013』 日外
アソシエーツ 4月 p249-250
- ・福島県川柳賞 受賞者
『最新文学賞事典 2009-2013』 日外
アソシエーツ 4月 p284-285
- ・福島県俳句賞 受賞者
『最新文学賞事典 2009-2013』 日外
アソシエーツ 4月 p285-286
- ・(31)いわき市立草野心平記念文学館
『文学館出版物内容総覧 図録・目録・
紀要・復刻・館報』岡野 裕行／編 日
外アソシエーツ 2013年4月
p155-168
- ・(26)郡山市こおりやま文学の森資料館
『文学館出版物内容総覧 図録・目録・
紀要・復刻・館報』岡野 裕行／編 日
外アソシエーツ 2013年4月
p168-175

方言

⇄会津

- ・(43)参考文献
『ふるさと会津・方言摘草』 安藤 潔
／著 文芸社 2011年2月 p409-411

戊辰戦争

- ・(78) 参考文献一覧表
『長州会津若松戦記 長州兵会津にて
かく戦へり』 河内山雅郎／著 河内山
雅郎 1月 p159-162
- ・(81) 参考文献一覧表
『幕末維新代理戦争 傭兵・客兵の戦
い』 河内山雅郎／著 河内山雅郎
2013年1月 p199-202
- ・(220) 主な参考文献
『戊辰戦争年表帖 その時、幕末二百八
十二諸藩は?』 ユニプラン 2013年11
月 p405-414

南相馬市(鹿島町)

- ・(359)参考文献
『鹿島町史 第1巻 通史編』南相馬市
教育委員会文化財課市史編さん係／編
南相馬市 7月 p1017-1038

文書目録

- ・(194)
『福島県歴史資料館収蔵資料目録 第
45集 県内諸家寄託文書』福島県文化振
興事業団福島県歴史資料館 3月 26p
- ・(1770)
『福島県石川町史資料目録 第12集
渡辺実氏収集文書旧渡辺直蔵家文書』石
川町町史編纂委員会／編 石川町 12
月 123p

民話

⇄会津美里町

- ・(12)参考・引用文献
『会津みさとのむかし話』 みさと民話
の会／編 みさと民話の会 5月 p149

歴史

- ・(35)福島県
『地方史文献年鑑 2013 郷土史研究
雑誌目次総覧 17』飯澤 文夫／編 岩田
書院 10月 p61-71

人物編

朝河貫一

- ・(33)参考文献
『100年前からの警告 福島原発事故と
朝河貫一』 武田徹／著 花伝社 5月
p146-148

天田愚庵

- ・(14)参考文献
『天田愚庵の生涯』 川嶋隆史／著 文
學の森 5月 p252

新谷崇一

⇄福島大学

- ・(62) 業績目録
『行政社会論集 第22巻, 第1号』福
島大学行政社会学会／[編] 3月 p3-9

井筒平

- ・(14)参考文献
『吾等は善き日本人たらん』 町田久次
／著 歴史春秋出版 7月 p97-98

伊東正義

- ・(10)主要参考文献
『伊東正義 総理のイスを蹴飛ばした男
自民党政治の「終わり」の始まり』 国
正武重／著 岩波書店 4月 p224

大庭久輔

- ・(14)引用・参考文献
『会津人群像 第26号』 「愚直に生き
た③大庭久輔」伊藤哲也／[著] 歴史春
秋社 4月 p101

上泉秀信

- ・(9)参考文献 上泉秀信関連
『農民作家上泉秀信の生涯』 中山雅弘
／著 歴史春秋出版 7月 p236

小島定

⇄福島大学

- ・(28)業績目録
『行政社会論集 第22巻, 第1号』福
島大学行政社会学会／[編] 3月
p12-15

佐原盛純

- ・(58)参考文献
『佐原盛純先生 小録 漢詩「白虎隊
の作者」佐藤隆夫／[著] 佐藤隆夫
1991年6月 p24-26

直江兼統

- ・(88)主要参考文献
『直江兼統と関ヶ原』 福島県文化振興
財団／編 戎光祥出版 8月
p145-149

新島八重

- ・(65)新島八重
『伝記・評伝全情報 2010-2014 日本・
東洋編』日外アソシエーツ株式会社／編
集 日外アソシエーツ 9月 p691-695

堀切善次郎

- ・(55)堀切善次郎著作目録
『現代史を語る 7 堀切善次郎・田中
広太郎』現代史料出版 2012年3月
p306-308

三島通庸

- ・(39)参考文献

『近代を写実せよ。 三島通庸と高橋由
一の挑戦』那須塩原市那須野が原博物館
／編 那須塩原市那須野が原博物館
10月 p186

安田尚

⇄福島大学

- ・(28)業績目録
『行政社会論集 第22巻, 第1号』福
島大学行政社会学会／[編] 3月
p20-23

山本覚馬

- ・(12)山本覚馬
『伝記・評伝全情報 2010-2014 日本・
東洋編』日外アソシエーツ株式会社／編
集 日外アソシエーツ 9月 p968-969
- ・(56)おもな参考文献
『闇に虹をかけた生涯山本覚馬伝』 吉
村康／著 本の泉社 2013年11月
p219-221

若松光一郎

- ・(19)参考文献
『若松光一郎 半世紀の歩み』 若松
光一郎／[画] 若松光一郎画集出版委
員会 1985年 巻末

渡邊鼎

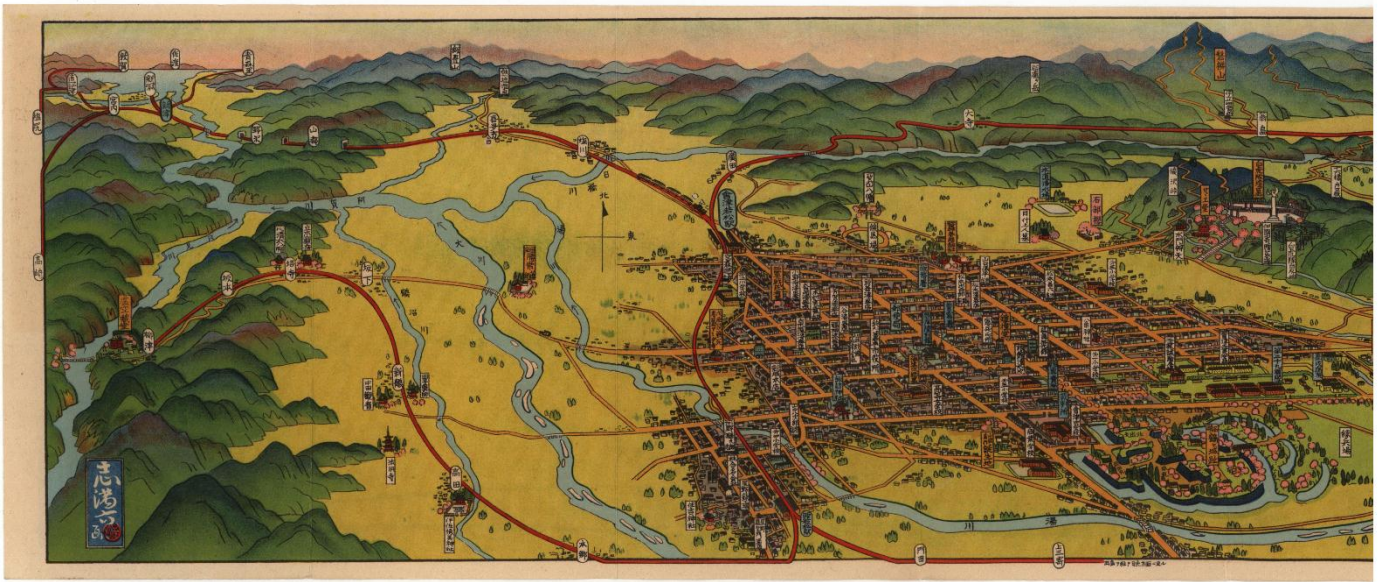
- ・(16)主な参考文献
『会津の偉人渡邊鼎 会陽医院』 伊藤
善創／著 歴史春秋出版 7月
p180-181

(地域資料チーム 橋本 栄理子)

=====
福島県郷土資料情報 No. 55

発行日：2015年3月13日

編集・発行：福島県立図書館
=====



『会津若松市及附近案内図』(左部分)